

主 題：主がまず愛してくださった 7

聖書箇所：ヨハネの手紙第一 4章19節 -4章12-21節-

今日は12節のところからみことばを学んでいきます。恐らく、皆さんもこのような質問を受けられたことがあると思います。それは「目に見えない神をどうして信じることができるのか？」です。この目で見ることができない神をどうして信じることができるのか？と。ヨハネは今日のみことばの箇所から私たちに教えます。「神を見ることはできる」と。そのために、神はすばらしい驚くべきみわざを為しておられます。今日のテキストをごいっしょに見ていきましょう。12-16節で、神がどのような愛をもって私たちを愛してくださったのか、「神の愛」について教えます。17-21節には、私たちの「神に対する愛」が記されています。

☆神を見ることが出来る

A. 神の愛 12-16節

1. 愛をいただいた目的 12節

まず、なぜ、私たちは神の愛をいただいたのか？その目的を教えます。12節「いまだかつて、だれも神を見た者はありません。」。確かに、神を見た者はありません。ヨハネは福音書でこのように記しています。ヨハネ1：18「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。」と。聖書は私たちに「神は霊である」と教えます。ヨハネの福音書4：24に「神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」とある通りです。霊である神を私たちはこの不完全な目をもって見ることはできないのです。パウロはそのことについて1テモテ6：15、16でこのように言います。「その現われを、神はご自分の良しとする時に示してくださいませ。神は祝福に満ちた唯一の主権者、王の王、主の主、:16 ただひとり死のない方であり、近づくこともできない光の中に住まれ、人間がだれひとり見たことのない、また見ることもできない方です。誉れと、とこしえの主権は神のものです。アーメン。」と。私たちが見ることもないし、また、見た人もいないと言うのです。主はモーセに対してもこんなことを言われました。出エジプト33：20「また仰せられた。「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである。」と。

ですから、確かに、みことばは私たちに「神は見ることはできない。見た人はいない。」と教えています。でも、モーセは、イザヤは神を見たのではないか？確かに、「神の顕現」ということで、神が神ご自身が選ばれた方法で、ご自身を人々の前に明らかにされたことはありました。しかし、私たち人間は神のすべてを見ることはできないのです。先ほどのみことばにある通り、私たち罪ある者が聖い神を見て生きていることなどできないのです。ですから、見ることができないというのは、ある意味では、私たちにとって大きなあわれみです。こんな罪深い私たちはだれ一人として、この神の前に立ち神を見ることはできません。しかし、それでいながらヨハネはこのように言うのです。「それでもあなたたちは神を見ることが出来る」と。

実は、このことについて主ご自身が教えています。ピリポが主イエス・キリストにこんな質問をします。ヨハネの福音書14：8「ピリポはイエスに言った。「主よ。私たちに父を見せてください。そうすれば満足します。」と。そのときにこのピリポに対してイエスが言われたことは「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。ど

うしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか。』です。イエスは「わたしを見た者、主イエス・キリストを見た者は父を見た」と言われたのです。どうしてそのようなことを言われたのでしょうか？イエス・キリストを通して父なる神が人々の前で明らかにされていたからです。主イエス・キリストは父なる神が、我々の目で見ることのできない神がどのようなお方であるかを人々の前に明らかに示されたのです。ですから、イエスが地上におられた時に、人々はイエス・キリストを見て父なる神がどのようなお方か、どのような愛をもっておられるのか、どれ程聖い正しい方なのかをご自分を通して人々に現わされたのです。

だから、人々はイエスを憎んだのです。なぜ、人間は神を憎むのか？それは人間が、神よりも、光よりも闇を愛するからです。なぜなら、考えられないでしょう、皆さん。罪の赦しがあるというメッセージを聞いていながら、人々はそのメッセージを意図的に拒むからです。神が救おうと言っておられるのに、その救いを意図的に拒むのです。それしか救いの道がないのに、それしか罪の赦しを得る方法がないのに、それでもなお拒み続けているのです。メッセージを何度聞いても拒み続けています。それは人間が神に近づくよりも、神を信じるよりも自分の罪の中を歩み続けて自分の好きなことをやっていきたいからです。だから、イエス・キリストを見てそこに父なる神を見た時に、彼らはイエス・キリストを拒み、憎んだのです。彼らは明らかに主イエス・キリストのうちに神を見ていました。そして、人々は彼を十字架に追いやるのです。

イエス・キリストは父なる神を世の人々に明らかにしていたのですが、では、イエス・キリストが昇天された後、どうなったのでしょうか？主イエス・キリストが地上にいた時には、人々はイエスを通して父なる神を知ることができました。でも、イエス・キリストが天にお帰りになった後はこの働きはなくなってしまったのでしょうか？ヨハネは言います。「いいえ、その働きは継続しています。」と。そのことを彼はこの12節で教えているのです。「**いまだかつて、だれも神を見た者はありません。もし私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。**」。ヨハネがここ言わんとしていること、結論を言うと、「父なる神は信仰者であるあなたを通して世に明らかにされる」ということです。主イエス・キリストを通して父なる神が明らかにされて来たように、主イエス・キリストが天に凱旋なさった後は、イエス・キリストを信じる信仰者を通して父なる神が世に明らかにされ続けて来たのです。そして、その働きは今も変わらないのです。ということは、ここにいる信仰者であるあなたを神は用いて、あなたを通して父なる神がどんなにすばらしい方であるかを世に明らかにしようとしておられるということなのです。だから、ヨハネは「兄弟を愛しなさい」と言うのです。

＊「もし私たちが互いに愛し合うなら、」

その大切さについてヨハネは再び12節で触れるのですが、「もし私たちが互いに愛し合うなら」とは条件です。もし、あなたが兄弟を愛する選択をしそのように生きるなら、このような結果が伴うのです。「**神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全うされる**」と。

＊もし、私たちが互いに愛し合うなら...

- ・「**神は私たちのうちにおられ**」＝つまり、あなたが兄弟を愛することを実践するなら、人々はあなたのうちに神がいることを見るということなのです。
- ・「**神の愛が私たちのうちに全うされる**」＝この「全うされる」とは「目標に達する」という意味があります。その目標とは「信者が互いに愛し合うこと」です。あなたが兄弟を愛するということなのです。それが神の愛の目標なのです。そして、あなたのうちに与えられた神の愛が、あなたのうちに働いてこの目標に近づくように神の愛がみわざを為すということなのです。

ヨハネは私たちに何度も「兄弟を愛しなさい。互いに愛し合っていていきなさい。」と教えました。なぜ、それが大切なのか？もう何度も見て来たことです。

***もし、あなたが「兄弟を愛すること」を実践するなら...**

- ・あなたを通してあなたのうちに神の愛があることが明らかにされる。
- ・あなたの信じているこの真の神がどのような神か？この方が愛に満ちあふれた神であることが、あなたを通して明らかにされていく。

だから、愛することを実践することが必要だとヨハネは教えるのです。あなたのうちに愛なる神がいる、神は愛なるお方だということが明らかにされます。同時に、神の愛とはどのようなものか？ことばで言ってもなかなか分かりません。「愛」の行為を見て私たちはこれが愛だと気付くのです。私たちは神から愛をいただいた者です。そして、私たちがその愛を実践し兄弟を愛して行く時に、人々は見たことのない神の愛を具体的な形で見えるのです。ですから、兄弟を愛することによって、私たちの信じている神がどんな神かを人々は知ります。愛の神だということを知ります。

そして、神の愛がどういうものなのか、具体的に彼らはそれを知るのである。だから、ヨハネは「兄弟を愛しなさい」と繰り返すのです。イエスがこの地上におられた時に、父なる神を明らかにして来られたように、あなたがそれを実践するなら、あなたのその働きを神は用いてくださるのである。神のすごい計画があると思いませんか、皆さん？この目的のために神はあなたを救ってくださり、この地上にあなたを置いてくださっているのです。父なる神がどんなにすばらしいお方かを、あなたを通して神は明らかにしようとしておられるのです。だから、まず、私たちは覚えておかなければいけません。このような大きな務めを神は私たちにくださったのです。それを覚える時に、私たちは「主よ、どうぞ助けてください！私のやっていることはそれと真逆なことです。もしかすると、私が示している神はあなたからかけ離れたものかもしれない。そのようなことがあってはならない！私が愛する神を私はより鮮明に示していきたいです。そのために私を救ってくださり、私を通してそのことを為そうとしておられるのなら、どうぞ神さま、私を助け続けてくださり、そのようなみわざを私を通して為してください。」と願います。まず、今日、私たちが覚えることは、神はこのような計画をあなたに対してもっておられるということです。神ご自身を世に明らかにするために、周りの人々に明らかにするために、神はあなたを救ったのです。

そのことを教えたヨハネ、目に見ることのできない神をあなたを通して見ることができると、そのことを話したヨハネは、今度はその神について13-16節で教えます。

2. 愛を与えてくださった神 13-16節

あなたにこのようなすばらしい愛を与えてくださった神はどのような神なのかを彼は教えます。教理のことになります。この神はどのようなお方で、あなたのためにいったい何を為さったのか？ヨハネは教えていきますが、なぜ、ヨハネは突然このようなことを教えようとしたのでしょうか？恐らく、ヨハネはこのことが余りにも大切だから、ここで再び繰り返すのでしょうか。なぜなら、ヨハネは福音書の中でこのことを教えているからです。ここは短い箇所に非常に凝縮して結論が記されています。ヨハネがこの教理を教えようとしたのは、ヨハネの関心はすべての読者がこの救いに与ること、また、救われているすべてのクリスチャンたちが、救われている確信をもって生きることだったからです。どうすれば救われるのか？どうすれば救いの確信をもつのか？簡単です。神が教える福音のメッセージを聞き、私たちが信じるべき真理をしっかりと知ることです。私たちの周りにはキリスト教と名のつく異端がいっぱいあります。彼らのメッセージを聞き、彼らの教えを聞いていると、その教理がいかに非聖書的である

かに気付きます。熱心であることは確かです。でも、真理に基づいていません。「継承」ということを考えるなら、私たち自身もよく考えなければいけません。何を信じているのか？ どうしてそれを信じているのか？ 私たちは聖書が教えていることを信じるのです。でも、聖書が教えていることを信じるためには、聖書の教えていることを正しく知らなければいけません。ヨハネはこの短い箇所、神についての大切な教えを、神についての教理を与えてくれます。

1) 父なる神 12-13節

12-13節「いまだかつて、だれも神を見た者はありません。もし私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。:13 神は私たちに御霊を与えてくださいました。それによって、私たちが神のうちにおり、神も私たちのうちにおられることがわかります。」、また、14節には「私たちは、御父が御子を世の救い主として遣わされたのを見て、今そのあかしをしています。」と記されています。ヨハネが初めに言うのは「父なる神」についてです。この父なる神がいったい何をしたのか？ ヨハネは「神は私たちに御霊を与えてくださいました」、「御父が御子を世の救い主として遣わされた」と言って、御父の働きは聖霊なる神を送り、主イエス・キリストを送られたと教えます。

2) 御霊 13節

13節「神は私たちに御霊を与えてくださいました。それによって、私たちが神のうちにおり、神も私たちのうちにおられる...」と、聖霊なる神のことです。では、この聖霊なる神はどのような働きをするのでしょうか？

*聖霊なる神の働き

・神の内住を確信させてくれる

13節に「それによって」とあります。内住する聖霊、つまり、クリスチャンのうちに住んでくださっている聖霊なる神によって、「私は救われている」という確信を持つことができるということです。そのような確信を聖霊は与えてくれるのです。15節にも「だれでも、イエスを神の御子と告白するなら、神はその人のうちにおられ、その人も神のうちにいます。」とあって、同じフレーズが出て来ました。16節「私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛にうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられます。」と、繰り返されています。つまり、救われているということです、そのような確信を聖霊が信仰者である私たちに与えてくれるのです。聖霊はそのような働きをします。

・御子を信じることができる信仰へと導く

14節「御父が御子を世の救い主として遣わされたのを見て、」、イエス・キリストがこの世に生まれたことは、歴史上の人物としてみな知っています。しかし、その方が救い主だということは私たちは聖霊を通して悟らされたのです。15節に「だれでも、イエスを神の御子と告白するなら、」とあります。「イエスは神であり、イエスが私の神である」と告白すること、この働きも聖霊なる神が為さるみわざなのです。私たちがイエスを信じるという決心に至ったのは、聖霊なる神が私たちの心にそのように働いてくださったからです。そして16節にも「私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じています。」とありますが、神がどれ程私のことを愛してくださっているのかを理解できたのは、聖霊なる神の働きなのです。そして、「私はイエスを信じます」と決心できたのも聖霊なる神の働きです。このような働きをする聖霊を父なる神が送ってくださったのです。

・御子を証する／聖霊の力で証を為す

14節には「私たちは、御父が御子を世の救い主として遣わされたのを見て、今そのあかしをしています。」とあり、聖霊なる神の働きは「御子を証する」のです。しかも、私たちはこの証を聖霊の力を頂いてす

るのです。イエス・キリストが真の神であり、唯一の救い主であることを、私たちは聖霊なる神の助けを頂きながら人々に伝えるのです。

・愛することができる

「愛することができるように」聖霊は私たちのうちにみわざを為すのです。16節「**神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられます。**」、私たちは愛を頂いただけでなく、愛を実践する者へと聖霊が変えてくれるのです。そのことは、ヨハネが繰り返して私たちに教えてくれました。実は、今日もそのことを彼は教えようとするのです。

ですから、父なる神がどのような方であり、聖霊なる神がどのような方であるか、このわずかな箇所ですヨハネは教えてくれています。

3) 御子イエス

もう一つ、主イエス・キリストに関して、14-15節を見ると「御子」ということばが出て来ます。14節「**私たちは、御父が御子を世の救い主として遣わされた...**」、15節「**だれでも イエスを神の御子と告白するなら...**」。「御子」ということばが使われる時に私たちが覚えておかなければいけないことは、二つの意味があるということです。(1)この人は救世主、旧約で約束されていたメシヤであるということ、同時に、(2)この方は神あることを明らかにしています。実は、ヨハネの福音書の中で、ヨハネは繰り返してそのことを教えて来ました。ヨハネの福音書の4章、6章、7章、8章、13章の中で、この御子と父なる神は意志において一つであると言っています。同じ考えをもっているということです。また、行為においても一つであると言います。ヨハネ14:10に記されています。「**わたしが父におり、父がわたしにおられることを、あなたは信じないのですか。わたしがあなたがたに言うことばは、わたしが自分から話しているではありません。わたしのうちにおられる父が、ご自分のわざをしておられるのです。**」。そして、決定的なことは、父なる神も御子も永遠のいのちを与えることができるということです。ヨハネ10:28-30にあります。「**:28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。:29 わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。:30 わたしと父とは一つです。**」

ですから、こうして「御子」ということばが使われる時に、彼が救世主であるとともに彼は神であることを明らかにするのです。ヨハネはそのようにここで結論を言っているのです。イエスがだれなのかを教えているのです。イエスは救世主であり、イエスは神であると。ですから、14節に「**私たちは、御父が御子を世に遣わした**」と言っていません。「**御子を世の救い主として遣わした**」と記しています。この中でヨハネは三位一体の神を教えるのです。父であり、そして、聖霊であり、子なる神、その方を私たちは信じると言うのです。見事なヨハネのメッセージがここに記されています。このような神によってあなたは愛されたのです。父なる神が愛し、そして、聖霊なる神が働いてあなたを救いへと導き、その救いに与ったあなたのうちに聖霊なる神が住んでくださり、そして、その聖霊があなたを変えていくくれるのです。

神はすばらしいみわざをあなたのために為してくださった。あなたはこのような神によって愛されているということを教えるのです。

B. 神への愛 17-21節

神の愛をいただいた私たちが神を愛していく、その「神への愛」についてヨハネは教えます。17節に「**このことによって、愛が私たちにおいても完全なものとなりました。**」とあります。「このことによって」

とありますが、これは当然、その前の箇所に掛かっています。16節に「神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられます。」と救いのことですが、「このことによって」、この救いによって次のようなことが信仰者のうちに起こったと言うのです。

＊神への愛がもたらす確信

1) 神のさばきを恐れない 17節

17節「...愛が私たちにおいても完全なものとなりました。それは私たちが、さばきの日にも大胆さを持つことができるためです。」と、つまり、ヨハネはこの救いに与ることによって、あなたは神のさばきを恐れない人へと変えられたと言うのです。

(1) さばきの日にも大胆さをもつことができる

ですから、「さばきの日にも大胆さを持つことができる」、さばきを恐れていないからです。実は、その「恐れ」がこの後に出て来ます。「愛」と「恐れ」とが対比されています。まず、この17節でヨハネが言うことは、あなたがこの救いに与ることによって、あなたは神のさばきを恐れない者へと生まれ変わったということです。なぜなら、さばきは恐ろしいからです。主の赦しを頂いていない人、赦しを拒んでいる人にとって、このさばきの日は恐ろしい日です。なぜなら、すべてのことを知っておられる主なる神によって、あなたのあらゆる悪がさばかれるからです。

ヘブル人への手紙10：26－27に「もし私たちが、真理の知識を受けて後、ことさらに罪を犯し続けるならば、罪のためのいけにえは、もはや残されていません。もし私たちが、真理の知識を受けて後、ことさらに罪を犯し続けるならば、罪のためにいけにえは、もはや残されていません。:27ただ、さばきと、逆らう人たちを焼き尽くす激しい火とを、恐れながら待つよりほかはないのです。」とあります。神の救いが与えられていながら、そのメッセージを聞いていながら、そのメッセージを意図的に拒み続けている人に「救いはない」と言うのです。神が意地悪ではないのです。その人が救いのメッセージを聞いても聞いても拒み続けているのです。罪の赦しがあるのに、その赦しの救い主を拒み続けている以上、その人に救いが与えられるはずはありません。そのことをこのヘブル書の著者は私たちに教えるのです。

◎主にお会いすることに関して

その救いを拒んでいる人はどうでしょう？「ただ、さばきと、逆らう人たちを焼き尽くす激しい火とを、恐れながら待つよりほかはないのです。」とあります。彼らが信じようと信じまいと、彼らの歩みの先にあるのは永遠の地獄です。そこから逃れることもできないし、そこに救いはありません。そこにあるのは罪のさばきだけです。ですから、人々は一生懸命、死んでから先のことを考えないようにしようとし、それを考えると今が不安になるからです。今を楽しく生きようとしたら、その先のことなどは考えないと言います。でも、私たちが人々に教え続けなければいけないことは、それで終わらないということです。私たちはみな神の前に立ちます。神の前に立って、ある者はその罪の赦しを得ていないために、罪がさばかれ永遠の地獄に至ります。ある人々は罪が赦されているゆえに、罪のさばきではなく神の祝福を頂いて、主とともに永遠を過ごします。例外なしに、ここにおられる皆さん、あなたは神の前に立ちます。神によって救われた人々、罪の赦しを頂いている人は、神にお会いする日を楽しみにしているのです。早く主にお会いしたいと思っているのです。ですから、ヨハネが私たちに教えてくれるのは、さばきの日にも大胆さを持つことができるのはなぜか？罪の赦しを与えられていて、もう私はさばきではなくて、この主とともに永遠を過ごすという確信をもっているからです。その確信を得たのは救いを頂いたからです。ヨハネ2：28に「そこで、子どもたちよ。キリストのうちにとどまっていなさい。そ

れは、キリストが現れるとき、私たちが信頼を持ち、その来臨のときに、御前で恥じ入るということのないためです。」とある通りです。

◎祈りに関して

「大胆さ」ということばをヨハネは使っていますが、これは「確信」と訳せることばです。新約聖書には31回使われています。特に一番分かり易いのは「祈りに関して」です。ヨハネ5：14に「**何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です。**」とあります。このことばです。ですから、大胆さを持つことができる、そのさばきに私は合わないというその確信です。罪のさばきを受けることはないという確信です。私はイエス・キリストとともに永遠を過ごすという確信です。感謝なことに、神によって救いに与った人たちに神はその確信を与えてくれるのです。ですから、神の救いを頂いた人、神の愛を頂いた人々は、このような確信をもって生きる者なのです。だから、感謝するのです。「神様、ありがとうございます。私を罪から救い出してくださってあなたにお会いし、そして、あなたを賛美しあなたとともに永遠を過ごせる。」と。

2) その理由

もう一つ、17節で見たいことは「**愛が私たちにおいても完全なものとなりました。**」ということばです。愛において完全な者、そんな人はこの中にいますか？残念ながら、そのような人はどこにもいません。愛において成長している人はいます。でも残念ながら、まだ完全ではありません。そうするとこのみことばが私たちに教えていることは何でしょう？二つのヒントがあります。

- ・「**このことによって**」＝その意味を知るために、17節の初めに記されている「**このことによって**」ということばを見ます。これは先程も話した通り「救い」のことです。

- ・「**なぜなら**」＝そして、中程には「**なぜなら**」という接続詞が出て来ます。「**なぜなら、私たちもこの世にあってキリストと同じような者であるからです。**」。私たちがさばきに合わないという確信をもてるのはなぜか？救われたから、救われることによって私はこの確信をもったと言うのです。そして、ヨハネは「**キリストと同じような者であるからです。**」と記しています。私たちはイエスを見たときに、すべてにおいて完璧だったイエスと自分自身を比べて、余りにも差があると分かります。確かに、聖霊なる神は私たちが主に似た者に変え続けてくださっているけれども、余りにも開きがある。私たちは栄光のからだを頂くその時まで、私たちはこの地上にあって、主に似た者に変えられるという働きを経験して行くのですが、そのようなことを言っているのではありません。ここでヨハネが言わんとしたことは「キリストと同じような者である」とは、「キリストと同じように神の前に立つことができる者だ」ということです。救いによって与えられた「主なる神の前における私たちの立場」のことです。主イエス・キリストはいつでも神の前に出るようになりました。そして、この救いに与った私たちもいつでも神の前に立つことが赦されたのです。なぜなら、我々は神の前に「義なる者」とされたからです。罪が赦された、救いに与ったということはそういう意味です。

- ・**私たちは「キリストの義」をまとっている**＝私たちは救いに与ることによって地獄から解放され、日々の生活において罪の力から解放されます。それだけではありません。私たちは「義の衣」を着せられたのです。義なる者とされたのです。イザヤ書42：6には「わたし、【主】は、義をもってあなたを召し、あなたの手を握り、あなたを見守り、あなたを民の契約とし、国々の光とする。」と記されています。新約の私たちはキリストにあって新しい立場が与えられたのです。神の前に立つことが赦された者としての特権を頂いたのです。だから、我々はいつでも神の前に立つことが赦されています。ローマ3：22にこのように記されています。「すなわち、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、それはすべて

の信じる人に与えられ、何の差別もありません。」、イエス・キリストを信じるすべての人に神の義を神が与えてくださることを私たちは信じています。イエスを信じることによって私たちは神の義を得たのです。神はあなたを見てもう聖い者、義なる者だと宣言してくださり、私たちはこの義なる聖い神の前に立つことが赦されたのです。そのことを言っているのです。

だから、大胆に神の前に立つことができるのです。あなたは罪赦されたし、救いに与ったし、同時に、義なる者とされているから、主と同じように義なる者とされているゆえに、あなたはこの神の前に恐れをもって立つのではなく、大胆にこの方の前に立つことができると言うのです。テトス2：13をご覧ください。「祝福された望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるキリスト・イエスの栄光ある現れを待ち望むようにと教えさとしたからです。」と、同じことをヨハネはこの17節で教えてくれます。私たちは神のさばきを恐れない、そのような人へと生まれ変わったのです。

皆さんにお聞きしますが、「だから皆さん、イエス様にお会いすることを楽しみにしているのでしょうか？」…。私たちは栄光のからだを頂き、私たちは主イエス・キリストを目の当たりにします。イエスと私たちは直接語ることができます。そこで私たちは震えるのではないのです。私たちはこの方に感謝をささげるのです。そして、永遠をこの方とともにこの方を誉め続けていくのです。その永遠の祝福の中に私たちは招かれるのです。だから、私たちはその日を待っているのでしょうか！ そのことをヨハネは私たちに教えてくれるのです。

2. 神のさばきを恐れる 18節

18節「愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。なぜなら恐れには刑罰が伴っているからです。恐れる者の愛は、全きものとなっていないのです。」、これは今話して来たことの説明です。

◎「愛」 対 「恐れ」

ここでヨハネは「愛には恐れがありません。」と言います。「愛」と「恐れ」は相反するものです。なぜなら、18節後半に「刑罰が伴っているから」とあるからです。

(1) いったい何を恐れるのか？

「刑罰」を恐れていると言います。この「刑罰」ということばは、新約聖書の中にはこの箇所とマタイの福音書25章46節にしか出て来ません。マタイ25：46「こうして、この人たちは永遠の刑罰に入り、正しい人たちは永遠のいのちに入ります。」と、これは地獄のことです。正しい人たちは永遠のいのちに入るが、ある人々は永遠の刑罰に入ると言うのです。だから、ヨハネは「永遠のさばき」を恐れていると言うのです。

(2) なぜ、恐れるのか？

では、なぜ、それを恐れるのでしょうか？見てください。「恐れる者の愛は、全きものとなっていないのです。」とあります。つまり、愛に問題があるのです。神が与えてくださった愛は、その人のうちに働いて神を愛する者、兄弟を愛する者へと変えられます。でも、そうでない愛の場合はそのような働きを私たちのうちにもたらさないのです。違いがわかりますか？愛に違いがあるのです。このような働きをもった愛、神を愛する者へと変えていくその愛、兄弟を愛する者へと変えていく愛、その愛を頂いているならその人は救われてるし、その人はいつでも神の前に立つことが赦されるその確信を持って生きることができるのです。救われているからです。しかし、ある人々は主にお会いすることを恐れている、刑罰を恐れていると言います。なぜなら、救われていないからです。そのことをヨハネはここで言うのです。ですから、神の救いを頂いた者たちはさばきを恐れないのであって、さばきを恐れるということは救いを頂いていないからということなのです。もし、「救われている」という人が神の刑罰、さばきを恐れ

ているなら、その救いをもう一度吟味してみる必要があります。「恐れる者の愛は、全きものとなっていない」、その愛に問題がありませんか？

3. 神への愛 19-21節

これらの説明をしたヨハネは19-21節で再び「神への愛」について教えます。19節「**私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。**」、ここに四つのことを見ることができます。

(1) 愛の神が愛してくださった

「**神がまず私たちを愛してくださったからです。**」と言います。ということは、私たちがまず初めに学ぶことは「**愛の神が私を愛してくれた**」ということです。あの十字架がその約束、その証拠です。もうあなたも私も愛されたのです。そして、感謝なことに、その方が愛し続けてくださっているのです。

(2) 神の愛が与えられた

「**神がまず私たちを愛してくださった**」、その神の愛を私たちは頂いたから私たちは愛する者になったのです。

(3) 神の愛が模範を示した

私たちにどのように愛すべきなのかという模範を示してくれました。キリストの愛を見た時に、このような愛をもってあなたは兄弟を愛しなさいと模範を示していることが分かります。

(4) 愛の神が私たちが愛することを可能にしてくれた

「**私たちは愛しています。**」とは現在形です。継続して愛していると言います。なぜそれが可能になったのか？神が私に神の愛をくださったからです。これがクリスチャンなのです。こうして神はあなたのうちにみわざをなしてくださり、あなたが神を愛する者、隣人を愛する者へと生まれ変わらせてくださったのです。

そして、20-21節には、

(5) 神の愛は、神の命令に対する服従を生み出す

20節「**神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。**」、神を愛する人は兄弟を愛すると言うのです。その理由は何度も見て来たので説明しません。神の救いというのは、神を愛する者に、隣人を愛する者へと私たちが生まれ変わったのです。だから、目に見えない神を愛していない人が、目に見える兄弟を愛していないことは当然のことだと言うのです。21節に「**神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています。**」とあります。思い出しませんか、皆さん？マルコ12:30-31「**心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。**」:31次にはこれです。『**あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。**』この二つより大事な命令は、ほかにありません。」と、この命令を実践する者へと私たちは生まれ変わったのです。

ですから、ヨハネは「**救われた人たちはこのような人です**」と教えてくれました。神を愛する者であり兄弟を愛する者です。それを実践することによって救いを頂くのではないのです。救われた者たちはこのような者たちへと生まれ変わったゆえに、私たちはそれを実践して行くことができるのです。

・ 神に対して : 神を愛する - 命令に従うことによって

・ 人に対して : 人々を愛する - 神の愛をもって

私たちはこのような人へと生まれ変わったと言います。

最後に、思い出してください。今日、12節でヨハネは私たちに教えてくれました。神があなたを救ってくださり、こんなすばらしい愛を与えてくださったのは、あなたを通して周りの人々にこの神を

明らかに示すためでした。あなたの信じている神のすばらしさを周りの人に明らかにするために、神はあなたを救ってくださり、神の愛をあなたに与えてくれたのです。そのことによって、あなたは神を愛するのです。そして、神に対するあなたの献身的な愛が、あなたの神がどんなに偉大な方かを周りの人々に示していきます。同時に、兄弟を愛する時に、あなたは周りの人々に神の愛がどういうものなのか、そして、愛の神がどんなお方なのかを明らかにしていくのです。そのために神はあなたを救ったと言うのです。そして、こんなに大切なすばらしい働きを神はあなたに与えてくれたのです。

信仰者の皆さん、次のことを神の前に祈ってこの場所を出て行きましょう！「主よ、あなたが私を通して何を現わそうとしているのか分かりました。どうぞ、そのために私を使ってください。私の家に帰ればあなたのことを知らない家族がいます。私の住んでいる町には、友人たちの中にはあなたのことを知らない人たちがたくさんいます。あなたは彼らに神がどんなお方であることを示すために、私を救ってくれたと教えてくれました。あなたの助けが必要です。その助けを与えてくださって私を使ってください。あなたのすばらしさを人々に示すために私を使ってください。」と。どう思いますか？神は何を為さるでしょう？あなたを使います。そのために神はあなたを救ったのだからです。どうぞ、主のすばらしさを証する人として、神がどんな方であることを証する人として、この一週間歩んでください！それを神は望んでおられます。

《考えましょう》

1. 「神の愛が私たちのうちに全うされる」（12節）とはどういう意味か？ご自分のことばでお書きください。
2. 真のキリスト者が、「さばきの日」を恐れないのはどうしてですか？
3. 「この世にあってキリストと同じような者」（17節）とは、どういう意味かを自分のことばで書いてください。
4. 神があなたに与えられた命令を記してください。そして、それは実現可能なのでしょうか？その理由もお書きください。